

平成20年度 第1回豊田市商業振興委員会会議録

【日時】 平成20年5月26日(月) 午後1時30分～5時00分

【場所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学商学部客員教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング オフィス アット・ドリーム代表〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
福岡 朋子〔愛知教育大学 学生〕

事務局

関 範夫〔豊田市産業部長〕
鈴木 辰吉〔豊田市産業部商工担当専門監〕
宮川 龍也〔豊田市産業部商業観光課長〕
清水 章〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
安川 佳孝〔豊田市産業部商業観光課主事〕

傍聴者

なし

【次第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
 - (1) 商店街活性化計画の更新について
・桜町本通り商店街振興組合 (資料1)
 - (2) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20～22)について
・足助商工会 (資料2)
 - (3) 商業活性化推進3ヵ年計画(H17～19)の実績報告について
・豊田まちづくり株式会社 (資料3)
 - (4) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20～22)の更新について
・豊田まちづくり株式会社 (資料4)
 - (5) 商店街活性化計画について
・永覚新町商店街振興組合 (資料5)
- 5 その他
- 6 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成20年度第1回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) 商店街活性化計画の更新について

・桜町本通り商店街振興組合

桜町本通り商店街振興組合 市古代表理事、鈴木理事、杉本理事より、資料1「桜町商店街振興組合 第2期商店街活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【主な質疑応答】

委員 八日市に力を入れているようだが、人を集まっても個店の売上につながっているのか。ここに店があることを知らせるだけでも違うが、個店へ引き込むような工夫がほしい。新しく出来た近隣マンションの入居者を引き込む工夫も必要。

桜町 130世帯くらい。リタイアされた方が多く、歩いて散策することが多いと思われる。高校生も通学で通るので、コミュニケーションを図っていきたい。

委員 第1期計画でハード整備は完了したが、店舗経営、営業力強化の部分で満足いかなかった。これは商業活性化において一番難しい部分。目標設定は数字を達成することではなく、数字を目指して繰り返しみんなで考えることが重要。第1期計画で、2店舗が計画前と比べて10%以上売上が伸びたとのこと。その2店舗と他の店舗との違いは何かそれをみんなで考えることが必要。商店街で売上を伸ばすには固定客、ファンの確保が必要となる。どのように増やしていくか。商店街全体のファンとするか、個店ごとのファンとするのか、商店街としては難しいかもしれないが、少なくとも個店ごとには目標設定して、数値に照らし合わせながら何が足りないのかを考えていかなければいけない。目標数値は単なる手段として定期的に考えることが大事。

委員 よく通る。歩きやすい。ただあまり歩いていない。店主も歩く人も高齢化している。そういう方がターゲットになるのでは。女性は宣伝しなくても口コミで広がる。

委員 消費者や学生を集めての懇談会をするのも良いのでは。商店街に何が求められているのかが良く分かる。アンケートでは選択肢にあるものに限られる。

- 委員 学生はどれくらい通るのか。
- 桜町 1日100名くらい。
- 委員 学生が立ち止まるきっかけがあると良い。図書館等で勉強する学生も多い。商店街にも勉強できるスペース等があると嬉しいのでは。
- 桜町 商店街には安全のイメージがある。通ってもらえることが大事。
- 委員 TCCMで店舗経営の評価・指導の仕組みを作っていきたい。
- 事務局 焼きそば、おでん、カキ氷などがあると学生は寄る。お年寄りが多いのであれば、健康道路みたいなものができる面白いのでは。桜町という名にちなんで県内桜町商店街サミットみたいなものも面白いと思う。
- 委員 桜町通りはきれいになった。これで竹生線、桜城址公園がきれいに整備されるとつながりができ、回遊が出てくる。タイミングを計って業種転換等も考えていかななくてはならない。
- 委員 フラワーポットは個店で管理しているのか。それを地域の人に管理してもらおうとかたちにすると回遊も出てくる。将来3年間の努力を期待して、委員会として当計画の認定は妥当であるとする。

(2) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20~22)について

・足助商工会

足助商工会 宇井会長、柴田経営指導員より、資料2「足助商工会 平成20年~22年商業活性化推進交付金事業(3ヵ年計画)」に基づき、前回の商業振興委員会で課題をいただいた部分を中心に内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【主な質疑応答】

- 委員 TCCMと上手く連携して、中心市街地と足助の情報等を共有しながら実施していくと面白いのではないかと。
- 委員 地元の人まちなみについてどう思っているのか。興味の対象となっているのか。
- 足助 住むには不便。でも活かしていくことが大切で義務だと思っている。
- 委員 店舗の力では豊田の中心部に負けてしまう。買物以外でまちへ行きたいと思わせる部分がまちなみということか。そのきっかけのためのイベントとして実施できるのであれば良いのでは。
- 足助 足助で生まれ、当時は栄えたまちであった。昔懐かしいまちなみがそのまま残っているので上手く使っていきたいという意識は、商店街にある。
- 委員 足助のまちなみ観光は一定の成果を上げているが、それ以上にはなかなか進んでいかなかった。そのきっかけとして、まちなみイベントを上手く活用し、地元の人懐かしさを駆り立てて、地元の人主人公になるようなイベントにしていければ、まちなみプラス違った魅力で足助を訪れるようになるのではないかと。1年目、2年目、3年目でステップアップするよう進めて欲しい。
- 委員 足助の人がわが町を誇れることが大事。
- 委員 足助はイベントを上手に行っている。ただ商店街まで人が入っていくか。入っていくと嬉しいと思う。商店街も面白いということをもっとPRしていくことが必要では。

委員 足助の観光は手作りで成功してきた。商店街の個々の店まで広がっていくと良い。

委員 外から人を呼ぶことも大事だが、地域内の意識を高めることも大事。

事務局 合併後、市からも様々な課の事業が入っている。いきなり金が入りすぎて、自分たちを見失わないように進めていただきたい。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(3) 商業活性化推進3ヵ年計画(H17~19)の実績報告について

・豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり株式会社 深津取締役、杉本部長より、資料3「豊田まちづくり(株) 第1期(平成17~19年度)商業活性化推進交付金事業の報告」に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【質疑応答】

委員 強調したい事業はあるか。

まちづくり 全ての事業を平行的にやってきたことで、結果が出てきている。ある事業を強調するというのは難しい。

委員 成果は出てきている。あとは面としての集積、店舗数が増えているのか、各個店の売上まで伸びているか、そこまでになれば大成功。その辺りが次期課題ではないか。

委員 以前より中心市街地に人が増えてきている。

委員 明るくて歩きやすくて良いと思う。

(4) 商業活性化推進3ヵ年計画(H20~22)の更新について

・豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり株式会社 深津取締役、杉本部長より、資料4「中心市街地の活性化 ~豊田まちづくり(株) 第2期商業活性化推進交付金事業(3ヵ年計画)」に基づき、前回の商業振興委員会で課題をいただいた部分を中心に内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 大型店の効果は見えてきているが、商店街の効果が見えてこない。しかし、そこは商店街の自助努力の問題。街へ呼ぶ仕掛けをし、個店への呼び込みは自助努力でしてもらおう。経営者の意識が変わることが大事。

委員 投入された力を上手に使ってやれるところとやれないところの2元化している。

まちづくり 商店街が自主的に運営していくよう仕向けていく。

委員 全てを豊田まちづくり株式会社を中心に実施できわけではない。大事なのは商店街へ指導した後に、その商店街のリーダーが中心になって自分たちで進めていけること。活性化計画を策定した商店街は、そのリーダーが育ってきている。

委員 チャレンジショップについて、現在の場所を空け渡すということだが想定している場所はあるか。目立つところが良い。

まちづくり 場所は検討中。商売は面白いと思わせることが大事。

委員 商店街のテナントミックスは難しい。核となる魅力がある店を作り、それが集積してテナントミックスが成功する。その核となる店と顧客をどうつなげるか。店を歩いて気に入ったものを買う人と、買いたいものを目指し

て店に来る人がいる。老舗には固定客しか来ない。固定客＝ファンを作る場合の情報提供の仕方は違う。幅広く薄くではなく、一つ一つの魅力を深く情報提供する方法が必要。10人程度を対象に個店を回りながら魅力を伝える「商店街ツアー」の方法が良いのでは。1回辺りの人数は少なくとも何度も繰り返すことで効果が出る。マーケティングも大事。成功している店と成功していない店の違いをきちんと考えていくことが必要。商店街を越えて勉強したい人が研鑽する場として商業塾を行うなども検討してみてもは。イベントについて、まちの顔になるイベントというのは、何度も繰り返して実施することでイメージが定着する。

委員 商業活性化にすごいお金が使われているが、それが消費者とどう結びついているかが分かりにくい。机上論に感じられる部分もある。分かりやすくないか。

委員 まちなかサロンとはどのようなものを考えているのか。

まちづくり まちの方々の集会や100人規模の発表会ができるようなものを作りたいと考えている。まちの動きがすぐ分かるようなサロンにしたい。

委員 市民中心のまちなかサロンになるよう多くの意見を取り入れながら進めて欲しい。

委員 豊田スタジアムにサッカーを見に来る客をどうまちなかに惹きつけるかも考えなくてはいいけない。

委員 まちなかの飲食店にはかなり波及してきている。ただ物販には結びつきにくい。雨が降れば傘やカップを売るなどの少しずつ商売人の意識もイベントを上手く利用しようと変わってきている。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えている。

(5) 商店街活性化計画について

・永覚新町商店街振興組合

永覚新町商店街振興組合 松永理事より資料5「永覚新町商店街振興組合商店街活性化計画」に基づき内容説明を行い、認定の際に参考とする意見を委員からいただいた。

【質疑応答】

委員 商店街の連帯性よりも個店の活性化に重きを置き、個店の活性化により商店街の魅力を高めていく計画。

永覚新町 毎年恒例のふれあい夏祭り等で組合員の絆は強いし、ふるさとのまつりとして認知されている。

委員 地域の方と意思の疎通を図り、街を盛り上げることも大事だと思う。

委員 逸品のテーマは決まっているか。若者向けとか健康志向とか。

永覚新町 地域の文化、伝統みたいな商店街を象徴するようなイメージに合わせられると良いと思う。

委員 逸品商品作りをすれば必ず商店街の魅力が上がるわけではない。おもてなしのこころなど、店主の意識も変えていくことが大事。イルミネーションの充実とはどういったことを考えているのか。

永覚新町 スペースや街路樹等も無く通り全体に設置ができないので、1箇所固まってしまうが、歩く人には好評で商店街のアピールにはなっている。そのイルミネーションを増やしていきたい。

委員 通りを歩いてもらいたいの、イルミネーションを1箇所固めるといふのはどうか。手作り市の手作りの基準、豊田らしさとは何か明確にしたほうが良い。

委員 地域ニーズに合ったサービスを展開する必要がある。固定客が多いならば、その方たちを対象にした特典を考える必要がある。例えば何回か利用するとクーポン券を渡すなど。商店街共通で実施するのは難しいかもしれないが。

委員 何も無いところはでっぴあげで作ってしまうという手もある。「永覚＝永く覚える」ということで、知恵授けのようなものとか。

委員 逸品商品は1回作ったら終わりではない。次から次へと続けていく必要がある。絶えず考えていくことが大事でそれが魅力作りにつながる。店が閉まっている時間に夏祭りやイルミネーションをしても意味がない。ぜひイベント中は、夜間の営業時間の延長も考えて欲しい。

事務局 逸品商品を考える過程で魅力作りのアイデアも出てくると思う。地域貢献など、思いが伝わるシンプルで身の丈にあった計画で良いと思う。

委員 委員会として当計画の認定は妥当であると考えてる。

5 その他

(1) 中心市街地活性化基本計画について

事務局より現在の進捗状況を情報提供した。

(2) がんばる商店街応援プラン平成19年度実績について

事務局より報告資料に基づき情報提供した。

(3) 商店街団体の解散を検討している団体が続出する現状について

事務局より組合解散を検討している団体が続出している現状を情報提供した。

6 閉会

事務局 長時間に渡り、活発にご審議をいただきありがとうございました。説明に来た商店街の方々も、先生方のご意見を基に自助努力をしながら活性化計画を推進し、ぜひ他の商店街の模範となってほしいと思います。

今後の予定

第2回商業振興委員会開催予定日 平成20年9月30日(火)

第3回商業振興委員会開催予定日 平成20年3月17日(火)

以上